

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	菊陽町 遊技場 新築工事	階数	地上1F		
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字津久礼25	構造	S造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	900 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年		
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2015年4月14日		
敷地面積	19,027 m ²	作成者			
建築面積	3,920 m ²	確認日	2015年4月15日		
延床面積	3,664 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

環境品質 Q

環境負荷 L

BEE=1.0

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

102%

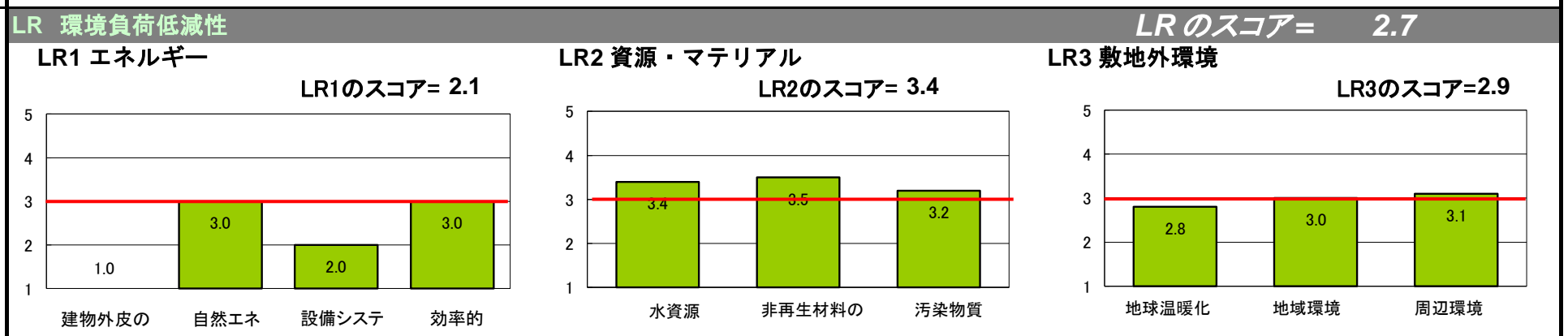
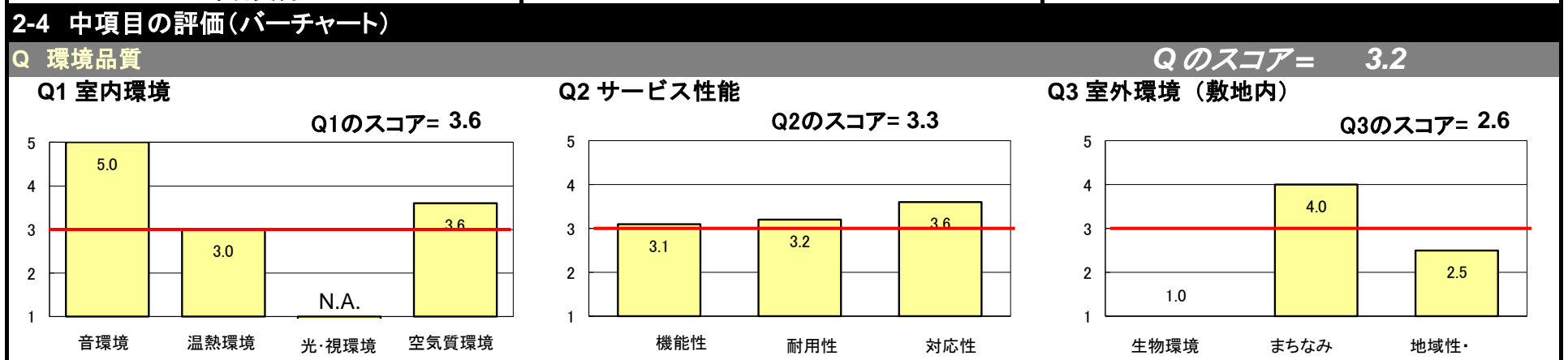
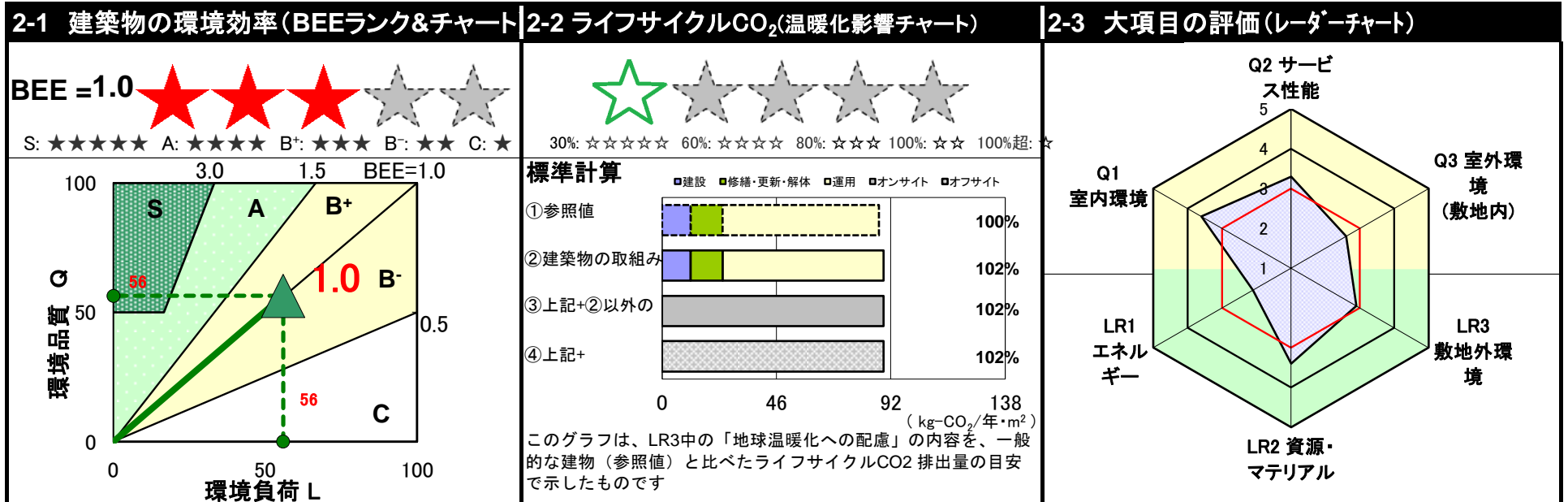
2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点												
		71												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	57.5												
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	65.0												
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	87.5												
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	89.2												
<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満		
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
<p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>														

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	菊陽町 遊技場 新築工事	階数	地上1F
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字津久礼25	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	900 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2015年4月14日
敷地面積	19,027 m ²	作成者	
建築面積	3,920 m ²	確認日	2015年4月15日
延床面積	3,664 m ²	確認者	



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 71

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 57.5	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 65.0
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 87.5	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 89.2

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
菊陽町 遊技場 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.40		-			3.6
1 音環境		5.0	0.23	-	-			5.0
1.1 騒音		-	-	-	-			
1.2 遮音		5.0	1.00	-	-			
1 開口部遮音性能	防音扉の性能は30db以上でT-2相当	5.0	1.00	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		-	-	3.0	-			
2 温熱環境		3.0	0.44	-	-			3.0
2.1 室温制御		3.8	0.50	-	-			
1 室温	遊技場: 夏季26℃冬期24℃の設備容量を確保している	4.0	0.50	3.0	-			
2 外皮性能		3.0	0.17	3.0	-			
3 ゾーン別制御性	系統別に冷暖房の選択可能	4.0	0.33	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		-	-	-	-			-
3.1 昼光利用		-	-	-	-			
1 昼光率		3.0	-	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	-	3.0	-			
3.2 グレア対策		-	-	-	-			
1 昼光制御		3.0	-	3.0	-			
3.3 照度		3.0	-	3.0	-			
3.4 照明制御		3.0	-	3.0	-			
4 空気質環境		3.6	0.33	-	-			3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	全て、F☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		4.0	0.30	-	-			
1 換気量	基準法の基準換気量の1.2倍以上を確保している	4.0	0.50	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮	給気口は各種排気口と6m以上離れている	4.0	0.50	3.0	-			
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		1.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.3
1 機能性		3.1	0.40	-	-			3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画		3.0	1.00	-	-			
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材の採用	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30	-	-			3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	金属系サイディング30年以上	5.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種がB以上、Eは不使用	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり					5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				3.0	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.08			5.0	1.00	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出					1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物を低い高さに抑える、無彩色・低彩度色、建蔽率に余裕を持たせ			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	2.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	2.1
1 建物外皮の熱負荷抑制					1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.03 住宅(専有部) 0.83			2.0	0.50	-	-	2.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)					2.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)					-	-	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型水栓に加え、節水型便器の採用			4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生密粒度アスファルト混合物、長尺塩ビシート(床材)			4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材、OAフロアの採用			5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	パッケージ I 型消火設備を採用			4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	
3	冷媒				3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮					2.8	0.33	-	-	2.8
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの一部を満たす、配慮事項の過半を満たす			4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・建物を周囲のまちなみに調和させ、光害の抑制にも取り組んでいる。

Q1 室内環境

- ・開口部遮音性能はT-2相当あり、周囲への音漏れに配慮している。
- ・内装材にはF☆☆☆☆を採用し、空気質環境の保全に努めている。

Q2 サービス性能

- ・防汚性の高い建材を採用し、建物の維持管理に配慮している。
- ・壁長さ比率を確保し、空間の形状・自由さに配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・500㎡を超える緑地を確保している。
- ・建物を周囲のまちなみに調和させている。

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

- ・節水型水栓、節水型便器の採用し、節水に努めている。
- ・躯体と仕上材が容易に分別可能であるなど、建物のリサイクル性の促進に取り組んでいる。

LR3 敷地外環境

- ・光害対策ガイドラインのチェックリストを一部満たし、広告物照明の扱いの配慮事項の過半を満たすなど、光害の抑制に努めている。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 菊陽町 遊技場 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		71
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				57.5	0.40	23.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				89.2	0.20	17.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数